



2010年2月26日

各位

会社名 新日鉱ホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 高萩光紀  
コード番号 5016 東証一部・大証一部・名証一部  
問合せ先 取締役 総務グループ 総務担当 加賀美 和夫  
電 話 03-5573-5129

当社連結子会社におけるチリ国「カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト」  
の開発決定および三井物産株式会社の参加について

当社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目、社長：高萩光紀）の連結子会社である日鉱金属株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目、社長：岡田昌徳）およびパンパシフィック・カッパー株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目、社長：足立吉正）は、このたび、チリ国「カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクト」の開発決定および三井物産株式会社の参加について、別添の通り発表することとしましたので、お知らせいたします。

2010年2月26日

報道各位

日 鋳 金 属 株 式 会 社  
三 井 金 属 鋳 業 株 式 会 社  
パ ン パ シ フ ィ ッ ク ・ カ ッ パ ー 株 式 会 社

チリ国「カセロネス銅・モリブデン鋳床開発プロジェクト」の開発決定および  
三井物産株式会社の参加について

日鋳金属株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目，社長：岡田昌徳）および三井金属鋳業株式会社（本社：東京都品川区大崎一丁目，社長：仙田貞雄）の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カップー株式会社（本社：東京都港区虎ノ門二丁目，社長：足立吉正，以下「PPC」）は，チリ国「カセロネス銅・モリブデン鋳床開発プロジェクト」（以下「本プロジェクト」）について，2006年5月の権益取得以降，鋳量確認探鋳，選鋳試験等に基づく経済性評価を実施してきました。

その結果，本プロジェクトの開発は十分な経済性が見込まれるとの結論を得るとともに，チリ国第3州環境委員会による環境認可が採択されたため，今般，開発への移行を決定しました。

また，本プロジェクトには，三井物産株式会社（本社：東京都千代田区大手町一丁目，社長：飯島彰己，以下「三井物産」）が25%の出資比率で参加する予定です。

本プロジェクトは，最近の銅価を踏まえた試算によれば，年間300億円から400億円の経常利益が期待できます。また，生産する銅精鋳をPPCグループの製錬所に供給します。

本プロジェクトの推進により，PPCグループの自山鋳比率は20%弱から約50%に向上し，製錬原料の安定調達に資するとともに，我が国金属資源の安定供給にも大きく貢献することができるものと考えています。

本プロジェクトの概要は別紙のとおりです。

以 上

【お問い合わせ先】

日鋳金属株式会社 総務部総務担当 河田 榑崎

TEL：03-5573-7223

三井金属鋳業株式会社 経営企画部広報室：桜井 杉浦

TEL：03-5437-8028

パンパシフィック・カップー株式会社 総務部：山尾 小松崎

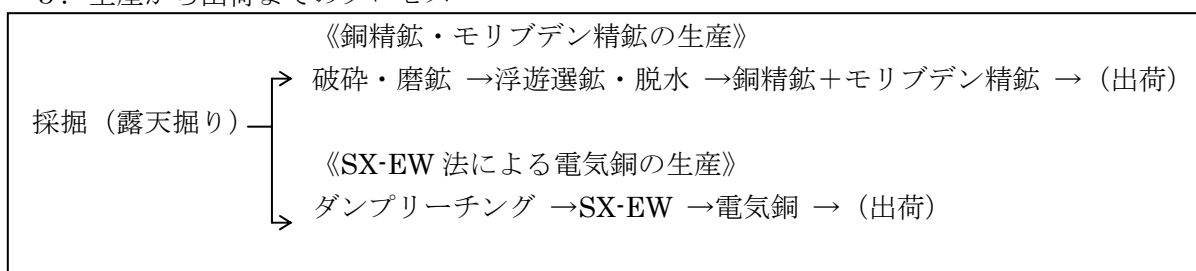
TEL：03-3560-8600

(別紙)

### カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクトの概要

1. 建設期間： 2010年3月～2013年（4年間）
2. 操業開始： ・SX-EW法による電気銅生産 2013年1月  
・銅精鉱・モリブデン精鉱生産 2013年9月
3. 生産期間： 2013年～2040年（28年間）
4. 生産方法： 銅 「SX-EW法による電気銅生産」と「精鉱生産」の併用  
モリブデン 精鉱生産

#### 5. 生産から出荷までのプロセス



(注)

- ・ダンプリーチング：鉱石を粉碎せず堆積させ、希硫酸を散布し、銅を浸出（リーチング）する方式。
- ・SX-EW法：溶媒抽出電解採取法。銅の浸出液から銅イオンを選択的に回収（溶媒抽出）し、この硫酸銅液から電解採取により電気銅を生産する。現在、世界の鉱山銅生産量の約20%を占める。

#### 6. 採掘対象鉱量（推定）

鉱石	鉱量 (億トン)	銅品位 (%)	モリブデン品位 (ppm)
銅精鉱・モリブデン精鉱生産対象 (一次硫化銅鉱および二次硫化銅鉱)	10.5	0.34	126
SX-EW法による電気銅生産対象 (酸化銅鉱および二次硫化銅鉱)	3.0	0.25	—

(注) 上記採掘対象鉱量はJORC基準に沿った確定、推定および予測鉱量からなる。

- ・一次硫化銅鉱：鉱床形成の初めに濃集した銅鉱石。黄銅鉱など。
- ・二次硫化銅鉱：硫化物の酸化によって生じた硫酸が、酸素の乏しい状態で再び一次硫化銅と反応し、新たに濃集形成した銅鉱石。輝銅鉱など。
- ・酸化銅鉱：一次硫化銅が地表付近で雨水や風化により、銅分が溶解し、酸化されたもの。  
胆ばん、孔雀石など。

本プロジェクトについての探鉱資金、スタディ費用等に関し、日鉱金属㈱および三井金属鉱業㈱はJOGMECの「金属鉱物海外探鉱資金貸付制度」を利用している。

7. 鉱石処理量： 約 10.3 万トン/日

8. 生産量（見込み）：  
（当初 5 年間平均）

銅： 銅精鉱（銅量）	約 15 万トン/年
電気銅	約 3 万トン/年
計	約 18 万トン/年
モリブデン	約 3 千トン/年

（28 年平均）

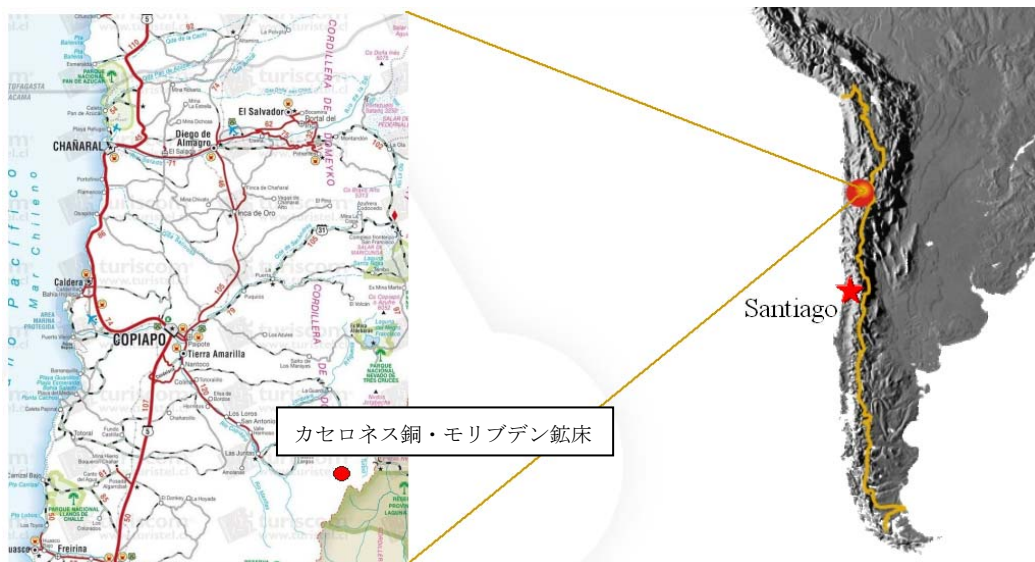
銅： 銅精鉱（銅量）	約 11 万トン/年（3,141 千トン/28 年）
電気銅	約 1 万トン/年（ 406 千トン/28 年）
計	約 12 万トン/年（総生産銅量 3,547 千トン）
モリブデン：	約 3 千トン/年（総生産モリブデン量 約 8 万 7 千トン）

9. 開発投資額（概算）： 約 20 億ドル（生産設備等初期投資額）

10. 資金調達方法： 株主各社からの出資および銀行団からのプロジェクト・ファイナンスを想定

11. カセロネス銅・モリブデン鉱床の所在地

チリ第三州の州都コピアポ（Copiapo）から南東 162km、アルゼンチンとの国境から 15km に所在。鉱床付近の標高は 4,200m～4,600m。



#### 将来見通しに関する注意事項

本通知には、将来見通しに関する記述が含まれています。これらの将来見通しに関する記述は、「考えます」、「期待します」、「見込みます」、「計画します」、「意図します」、「はずです」、「するつもりです」、「予測します」、「将来」、その他、これらと同様の表現、または特に「戦略」、「目標」、「計画」、「意図」などに関する説明という形で示されています。多くの要因によって、本文書に述べられている「将来に関する記述」と大きく異なる実際の結果が、将来発生する可能性があります。かかる要因としては、(1)マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における会社の競争環境などの業界の一般的な状況、(2)規制、訴訟に関する事項およびリスク、(3)法制上の変化、(4)税法その他の法律の改正、一般的経済状況の変化が及ぼす影響、(5)取引を完了させるための条件が満たされないリスク、(6)取引のために必要とされる規制当局の承認が取得できないリスク、または、承認が得られても予測せぬ条件が付帯するリスク、(7)取引の遂行に関連するその他のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。